

新年のごあいさつ

謹んで新年の お慶びを申し上げます

新年明けまして、
おめでとうございます。

謹んで初春の御祝詞を申し上げますとともに、皆様方の御健勝と御慶福を、心からお祈り申し上げます。

さて、年頭にあたり過ぐる1年を顧みますと、東海大学との教育・研究交流を通じまして、県境を越えた高地トレーニング等の交流事業をはじめ、志河川ダムや四国鉄道文化館（仮称）の建設工事の起工、12歳児を対象とした防災教育の実施など、本市の新たなまちづくりが、本格的に始動した旧年がありました。

そうした中、昨年11月の降ひょうのために、生産量日本一を誇る愛宕柿をはじめ、柑橘類やキウイフルーツが深刻な被害を受けるという、不測の災禍に見舞われました。しかしながら、このような思いがけない危機に直面した一方で、多数のボランティ

アの皆様方によります支援の手が、被害に遭われた農家の方々に差し伸べられるなど明るい話題もありました。

このような市民の皆様方の頼もしい力、市民力を目の当たりにしますと、誕生からはや2年の歳月を経た本市におきまして、地域住民の融和が進み、「一つのまち」としての一体感も、確固たるものとして醸成されています。このことを、強く実感する次第であります。

また、そうした状況を背景としまして、平成16年に発生した台風災害からの復旧をはじめ、獅子舞を通じたコミュニティー防災の「しくみづくり」や、本市自慢の「水と食」をテーマとする、積極的な情報発信などの本市独自のまちづくりも、より進展しているところであります。

その一方におきまして、本市を取り巻く情勢に目を向けてみると、地方公共団体の自主性と自立性を高めることを基本理念とした「地方分権改革推進法」が成立する

とともに、愛媛県においては、各市町への大幅な権限移譲を、平成19年度から進めていくこととしています。

このように、他の地方公共団体と同じく本市も地方自治の新たな局面を迎えているところであります。

しかししながら、こうした状況にひるむことなく、突出した農業生産力や四国屈指の工業集積を背景とした本市の「総合力」を、市民の皆様方が生み出す「市民力」をもって最大限に發揮させるための「人づくり」と「しくみづくり」に引き続き努め、本市の「自立と自活」、さらには、「人がつどい、まちが輝く、快適環境実感都市」の実現に繋げてまいる所存であります。

本年もどうかこの上ながらの御支援をお願いし、皆様方の益々の御多幸をお祈り申し上げまして、年頭のごあいさつといたしました。



西条市長
伊藤宏太郎